

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

Peace Through Service

奉仕を通じて平和を

2012-2013年度 国際ロータリー会長 田中 作次



2012-2013年度 会長 坪井和義 幹事 中村有孝 クラブ会報委員長 坂倉弘康
創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30
例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551
TEL 052-523-1998 FAX 052-531-0727

2012 August 29

2012~2013年度方針

「楽しいロータリーライフ 深めよう友情 広めようロータリーの輪」

NO.8

例会報告

- 第1958回例会 平成24年8月29日(水)曇
- 8月は会員増強及び拡大月間
- 井上雅之ガバナー補佐訪問日
- ロータリーソング 四つのテストのうち

●出席報告 会員 104 名中 出席74名

出席率76.29%

●ゲスト紹介

- ・井上雅之東名古屋分区ガバナー補佐 (名古屋昭和RC)
- ・本多 満筆頭地区副幹事 (名古屋東RC)
- ・加藤 厚分区幹事 (名古屋昭和RC)
- ・伊藤勝康君ゲスト 山田泰弘氏

●ニコボックス

「本日はガバナー補佐訪問でお世話になります。」
東名古屋分区井上雅之ガバナー補佐(名古屋昭和RC)
加藤 厚分区幹事(名古屋昭和RC)
本多 満筆頭地区副幹事(名古屋東RC)

「井上ガバナー補佐、本多筆頭地区副幹事、加藤分区幹事、本日はようこそ和合クラブにお越しいただきしました。」

坪井和義会長、丸山弘昭副会長、中村有孝幹事
「南山学園時代の同級生の山田君にゲストとしてきていただき大変多数にニコボックス寄付をいただきました。」 ゲスト山田泰弘氏 伊藤勝康君
「井上ガバナー補佐、和合クラブにようこそお越しいただきました。」 町田重夫君
「井上ガバナー補佐、本多筆頭地区副幹事、加藤分区幹事、ようこそお越し下さいました。」

安井隆豊君、林 邦司君、浅野 洋君
横井辰幸君、高木一平君、住野 新君
上村晋也君、花橋日出夫君、黒田史郎君
中野義識君、野崎敏夫君、岩田玄知君
稲川 久君、加治佐健二君、夏目英司君
桑山卓也君、片桐寛治君、小林利之君
國分孝雄君、安井信之君、相羽繁生君
山田和弘君、武田 猛君、谷 喜久郎君
吉田正道君、松原忠久君、坂倉弘康君
川畑 元君、伊藤勝康君、川中有志君
伊藤尚貴君、富島照男君

「9月1日桜山に4店舗目の調剤薬局をオープンいたします。今回はプライバシーに配慮した今迄とは一線を画した店舗です。お近くにお立寄りの際は是非ご利用下さい。」 夏目英司君

本日ニコボックス	7件	112,000円
累計	67件	835,000円

中村幹事報告

▽当クラブ行事予定

- ・8月29日(水) 本日、例会終了後クラブアッセンブリーを行います。理事・役員及び、各委員長、新入会員の方のご出席をお願い致します。

*クラブアッセンブリー終了後、理事会を行います。

・9月25日(火) ガバナー公式訪問日(名東RCホスト)

*名東RCホストのため、場所は名古屋国際ホテル、時間は12時30分~です。

*26日(水)を例会変更するため、26日のウェスティンナゴヤキャッスルでの例会は行いません。

坪井和義会長挨拶

ある音楽家との語らいの中で

今日、お話をさせて頂くのは、村田四郎先生というフルート演奏者の話です。

今が愛知県立芸術大学の教授をされています。以前、当クラブにも卓話者としておいで頂いた事があります。

先生は以前、名古屋フィルハーモニー交響楽団の第一フルート奏者として活躍をされていました。

ある時、と言っても相当以前になるのですが、先生と色々な話をしている、その中で私の心に残った話がありますので紹介をさせていただきます。

はじめは、日本でメセナは育つのだろうか?と、言った話でした。

メセナ(mécénat)とは、企業が資金を提供して、文化・芸術の活動を支援する事であります。

メセナは、フランス語で「文化の養護」を意味します。この語源はローマ帝政時代の初代皇帝アウグストゥスの政治的助言者であったガイウス・マエケナスの名前に由来すると言われています。

1990年代に盛んになり今日も続いています。企業の業績が悪くなるとスーと引いてしまう。楽団の運営もなかなかうまくいかないものですよ。と、言われていました。

でもフルートの練習は毎日欠かさずことなくやっている。もともとスキルを磨きたいと。

そこで私がちょっとくらいお休みしてもいいのでは?と話を向けると、先生は真顔になって、一日練習しないとコンサート当日、自分に練習していない事がわかる。

二日も練習しないと、隣のフルート奏者に分かってしまう。(通常3名で演奏している。)

また三日も練習していないと折角おいで頂いた聴衆の皆さんに分かってしまう。

そんなシビアーな世界なのです。と言われました。指揮者の戸山雄三さんも、村田先生の為にフルートの曲を作曲しています。

(卓話の時に少し演奏して頂けると有難いですが...と、話を向けると、先生は、演奏前には必ずおさらいをして準備をするもので、練習なしに演奏する事は出来ない。と、言われていました。)

私が当時まだ40歳にも満たないくらいの年齢で、歯科医療を志していた自分に置き換え、スキルを磨く、また診療哲学を考える上で、非常に感銘を受けた言葉でしたので、今日、ご紹介させて頂きました。皆さんにはどう映った事でしょうか。

どんな職業であっても、スキルを磨く、自分自身の幅を広げるという事は必要なのではないのでしょうか。

卓 話 (前編)

東名古屋分区ガバナー補佐 井上 雅之



皆さん、こんにちは。まさに一生に一度の機会、貴クラブを訪問させて頂いていることを大変光栄に存じます。

今年度RI会長の田中作次さんは、過去日本から3人目30年ぶり、第2770地区埼玉県八潮ロータリークラブ所属、1975年ご入会です。ご幼少の頃より、大変にご苦勞の多い方で、いろいろな経験を味わった方だけに、思慮深く、相手が誰であっても、絶えず笑顔で接してもらえる熱意と誠意に満ちあふれたお人柄であります。

今年度のRIテーマ「奉仕を通して平和を」

「平和」とは、非常に抽象的で定義しにくい言葉であり、住んでいる国や地域社会によって大いに異なるけれども、平和という概念は「満足感」「心の安らぎ」「幸福感」が含まれ、すべての人々にこの気持ちが満たされた時—それが究極的な平和であります。

「平和」についてのテーマは、クラブ計画書及びロータリーの友7月号に詳しく掲載されていますので、それ等をお読み頂くとして、私はむしろ田中RI会長がロータリーの友2月号と3月号に的を射た「これからのロータリー」への提言、助言をされています。それに注目したいと思えます。

【1】ロータリーは世間に伝える力に欠けている。

ロータリーは素晴らしいことをたくさんしていますが、そのことがあまり世間に知られていません。この状況を変える必要があります。

知名度を今より高める必要がある。ロータリーはどんな団体か、どんな活動をしているのか、どんな方向に向かっているのか、どんな恒久的テーマ(精神)でやっているか知られていない。イベントの度に、中部経済新聞等の掲載だけで満足することなく、実現可能な範囲でのマスメディアへの請求を更に広め、各クラブ単位で世間へ訴求力を高めて頂きたい。

【2】田中作次RI会長が若いロータリアン一人一人にお聞きしたいこと

(ロータリーの友2月号 横組み12ページ)

ロータリーは高い地位も低い地位もなく、クラブの中では皆平等であります。皆さんがロータリアンであることで、ロータリーから何を得ていますか、そしてロータリーがこれからどうなっていくべきか進むべき道はどのようにしたいか、若いこれからのロータリアンに特にお聞きしたい。

—日本のそしてロータリーの「来し方」を省み、未来像を描いて下さい。若きロータリアン40代、50代の方々の重要な使命です。60代もまだまだこれからです。むしろ「花の盛り」ロータリアンの一番いい年頃と言っても過言ではありません。

還暦を「これまで」と考えず、「これから」という発想でチャレンジして頂きたいものです。クールでマンネリの持つ安心感も結構かもしれませんが、明日への活力を創る中で、もっと多くの「ぬくもり」が行き交うロータリーに成長するよう祈ってやみません。

【3】「会員増強について」2012年国際協議会閉会本会にて

(ロータリーの友3月号 横組み32ページ)

「ロータリーが大きくなれば大きいほど強くなることは確かです。しかし、会員数だけを目標とすべきではありません。会員数を増やすためだけに新会員を入れてもロータリーは強くなれません。ただ入会できる人ではなく、ロータリアンになれる人を入会させて初めてロータリーは強くなるのです。私たちは皆ロータリから恩恵を受けています。自分と同じ幸せを新入会員に味わってもらいたい。ロータリアンになるよう、声をかける時に必ずこのことを思い出して下さい。」と教合せだけの勧誘を強く否定されておられます。—このご指摘は至極ごもっともです。

ロータリーの友(過去の)柳壇いわく

“増強とあせる気持ちががら回り”とももちろん会員増強も最重要事項ではありますが、私はむしろ今クラブに在籍する会員がロータリークラブに「ときめき・感動」を少しでも抱いているか否かが退会防止のカギを握っていると思えます。

幸いにも東名古屋分区は、会員増強に意欲的であり、去る4月15日の地区協議会後に開催された「会員増強セミナー」に於ける話では、11RCで計60名が目標となっております。大変頼もしいことです。そしてその一方で

私は比較的新しい会員への配慮が大いに必要と思います。従来のメンバー(特にロータリー情報委員会や紹介者)が例会毎に新入会員の近くにおいて、クラブへの不安、不備、倦怠感(またある時は逆に称賛)を開き出す努力をすべきです。孤独感、違和感を抱いて退会してしまった例はたくさんあります。

禅語 臨濟宗開祖「臨濟禪師」いわく、“随处 主となれば、立つ処 皆真なり”と。

主とは、主体性を持つことである、自分自身を惜しまぬ愛情であり、「真実の生命にめぐり会え、そこに生き甲斐を感じるのだ」と説いておられます。ロータリーは義理であるいは仕方なく出席する会合ではありません。主体性を持って「例会」という人生道場に出席しましょう。

東名古屋分区の11RCは大・小あっても、それぞれに特色があって「みんな違ってみんないい!!」のです。

意欲的にロータリアンになれる人に自信をもって入会して頂くようお願いいたします。

〈余談〉

「メイクアップ」

聞くところによりますと、ヨーロッパのクラブで比較的小人数のクラブの殆どは、メイクアップに来る外来メンバーに、たとえ30秒でも自己紹介をする時間を設けているようです。ただ黙って出席しているだけでなく、ビジターを心から温かく迎えるというこの姿勢は学ぶべきところがあります。

「ROTARY SONGS」

団体の理念を100回聞くよりも、素晴らしい歌を1回歌う方が参加意識が高まります。ロータリーソングは大切です。田中作次RI会長のテーマ「奉仕を通して平和を」は、ロータリーソングにたとえるなら「奉仕の理想」千田ガバナーのテーマ「~Touch the Rotary~ふれあい、思いやり、そして握手」は、「それでこそロータリー」「手に手つないで」

素朴な疑問

「奉仕の理想」は、なぜかロータリーの大きなイベントに斉唱されています。また各クラブでも月初めの例会に肅々と歌われています。

この曲は1935年(昭和10年)に作詞、作曲されたと聞いています。この頃は、軍の力が益々強くなり、好むと好まざるにかかわらず、日本が戦争に巻き込まれていく時代です。

〈御国に捧げん我等の生業〉はまさに時代を反映しています。しかし、〈望むは世界の久遠の平和〉とその後に続きます。ロータリーもロータリアンも「平和」を強く望んでいたのだと思いますが、表だって戦争に反対することなく、時の流れに流されてしまったのでしょうか?

田中作次RI会長が「平和」を唱えられておられる今年、こんなことを考えてみるのも意義があります。

〈追記〉

千田ガバナーが指摘される「社会的、経済的危機が続く世相」を表現した「川柳」があります。

経済面/底ばかり打ってるうちに底が抜け(景気)

ホリエモンの頃はよかったな みんな!!

(リーマンショック以前)

社会面/原発の怖さが最もクールビズ

(緊張の夏 日本夏の)

初めからないと思えば知恵も湧き フクシマを

持て余す国 再稼働(ノ元すぎれば)

【後編は次回掲載させて頂きます】

●第2回理事会(平成24年8月29日(水)クラブ協議会終了後 ウェスティンナゴヤキャッスル)

- ・新入会員 内藤博文氏(谷君、天野清美君、間地君紹介)
- ・職場例会の件
- ・新地区補助金の件
- ・1人100ドル寄付の件
- ・その他

●9月度誕生日祝福

会 員

ご 夫 人

松下 剛 君(9月1日)	黒田史郎 夫人(9月1日)
田中知克 君(9月4日)	黒田武志 夫人(9月4日)
加治佐健二 君(9月6日)	谷 喜久郎 夫人(9月8日)
夏目 稔 君(9月10日)	木村光宏 夫人(9月10日)
加藤寿彦 君(9月14日)	富島照男 夫人(9月11日)
宮下幸二郎 君(9月21日)	田中正次 夫人(9月17日)
伊藤尚貴 君(9月22日)	二村伝治 夫人(9月21日)
山田和弘 君(9月26日)	山本秀樹 夫人(9月26日)
川中有志 君(9月29日)	

○このウィクリーは再生紙を使用しております。